

ぶっしきみこし
仏式神輿

市指定有形文化財（工芸品）

お祭の時に神社から「ワッショイ、ワッショイ」と繰り出すのが「おみこし」です。神様が乗ることから、「神輿」と書きますが、仏様が乗る「おみこし」もあり、それが熊野大社に保存されている「仏式神輿」です。

神輿のてっぺんには鳳凰ほうおうが飾られ、四面が透かし彫りの花頭窓かとうまど（※1）で、月輪がちりんの中に阿弥陀如来ぼんじの梵字（※2）キリークが浮き出ています。

なぜ、熊野大社は神社なのに仏様がいるのでしょうか。それは、熊野大社が江戸時代までは、熊野山證誠寺という寺の中に祀まつられていたためです。

慶長3（1598）年、越後・信濃の大名上杉氏が会津120万石に同6（1601）年に米沢30万石に領地替えされ、置賜地方の殿様になります。その時、家臣の尾崎氏に命令し、信濃の善光寺如来を、この「仏式神輿」に乗せてきたとされています。甲斐・信濃の大名武田氏が「武田善光寺」を作ったように、上杉氏も「上杉善光寺」を造るつもりだったのでしょうか。

熊野大社には、「善光寺」と銘のある華鬘けまん（※3）が3面、三坪幡みつぼん（※4）が10枚あるなど、善光寺ゆかりの品も残っています。

※1＝上部が尖頭アーチ状の窓のこと。

※2＝古代インドの文字のサンスクリット語。

※3＝仏具の一種。仏前を装飾するため仏堂内陣の欄間らんまなどに掛けるもの。

※4＝荘厳具しょうごんぐ（装飾）の一つ。

南陽市文化財保護審議委員 須崎寛二
平成28年7月1日号 市報なんよう掲載

